

Web 版 Google Earth の使用法：受講者として地図を見る場合の操作法

・PC 用の Google Earth には 2 種類あり、一つはインストールして利用する GoogleEarthPro で、もう一つはインストール無しでブラウザで利用できる Web 版 GoogleEarth である。今のところ、Web 版 GoogleEarth は、GoogleChrome でのみ利用できる。iPad や Android でも GoogleEarth は利用可能で、PC 用の Web 版と、ほぼ同じ機能、操作性である。地図を見る場合は、Web 版 GoogleEarth の方が操作しやすい。

○Web ページで公開されている KML ファイルを開く手順（「自然地理学特論のページ」から開く場合）

①Google Chrome を起動する。

②「自然地理学特論のページ」を開いて、KML ファイルがリンクされている青いボタンをクリックする。

③そうすると、その KML ファイルがダウンロードされ、画面左下に、そのファイル名が表示される。

④Web 版 Google Earth を、あらかじめ保存しておいたブックマークから開く。


⑤Google Earth (Web 版) が開いたら、画面左上の白い三本線 (図 1) をクリックする。

⑥表示された画面の最も下にある「設定」をクリックして表示される画面の最も下にある「KML ファイルのインポートを有効にする (テスト機能)



図 1

能)」の右横の白いスライダーの右端をクリックして、青くして、その下にある「保存」をクリックする。

⑦Google Earth の起動画面の左中の  をクリックして表示される青字の「KML ファイルをインポート」をクリックして表示される「ファイルを開く...」をクリックする。

⑧表示された「開く」ウインドウで、「ダウンロード」フォルダを表示して、③でダウンロードしたファイルを選択して、「開く」をクリックして、表示された「保存」をクリックして、「<」をクリックすると、ダウンロードしたファイルの内容と空中写真が、画面いっぱいに表示される。なお、ダウンロード先を、「ダウンロード」フォルダとは別に指定している場合は、そこからダウンロードしたファイルを開くこと。



図 2

○ストリートビュー (地上映像) の利用法

・画面右下にある人形をクリックしたまましていると、道路に青い線が表示されるので、人形を青い線に移動して、クリックを解除して人形を離すと、離れたところの地上映像 (ストリートビュー) が表示される。地上映像が見られない道路もある。

Google Earth Pro の使用法：授業者として作図する場合の操作法

・今のところ、Web 版 Google Earth には作図機能はないため、作図をして KML ファイルを作成するためには、GoogleEarthPro を使用する必要がある。模擬授業で GoogleEarth を用いる場合は、何らかの情報（見るべき地点や範囲）を作図した KML ファイルを作成して、それを受講生が開くことになる。

○作図の手順

- ①作図するためのツールは3つあり（下図の①）、左から、目印、ポリゴン、パス、と呼ばれるツールで、それぞれ、点、領域、線を描くことができる。
- ②点を描く場合は、最も左にある目印ツールをクリックすると、その時に表示していた画面の中央に、点が描かれ、名前を入力するウィンドウが表示される。名前を入力すると、入力した内容が、点の横に表示される。点をクリックして移動すると、点を描く場所を移動することができる。ウィンドウの OK をクリックすると、入力内容が確定される。
- ③入力した点を、KML ファイルに保存する場合は、画面左にある「場所」（下図の②）に入力した点の名前が表示されるので、その名前を右クリックする。そうして表示されるメニューの中の、「名前を付けて場所を保存」をクリックして、保存場所とファイル名を指定して、保存する。この時に、ファイルの種類が、初期設定では KMZ になっているが、地理院地図で使用する場合は、KML に変更する。
- ④ポリゴン、パスについても、同様にして、それぞれ領域と線を描くことができる。
- ⑤パスについては、その線に沿った地形断面図を表示することができる。画面左にある「場所」（下図の②）のパスの名前を右クリックすると表示される「高度プロファイルを表示」をクリックすると、画面下部に、地形断面図が表示される。

